

地域に溶け込む中里中学校の地区生徒会

地区生徒会とは

「地域の中の学校づくり」を目指している中里中学校。社会体験など地域との交流を通して、人間性豊かな生徒を育てるために、平成15年に「地区生徒会」を設置しました。自分の住んでいる地区、20地区に分かれて、校区内の中里小学校、皆瀬小学校との連携を図りながら、地域で催される運動行事や敬老会、子ども会行事に参加するなど、地域住民の一人として若い力を発揮しています。

地区生徒会の主な活動

担当の神田修輔（しんたけしゅうすけ）教諭によると、地区生徒会は地域の協力を受けながら主に地区単位で活動しています。地区によっては、夏休み期間中に小学生向けの勉強会を開いて、宿題のアドバイスをするなど、地域に根付いた活動を続けています。グラウンドゴルフ大会では受付や記録係として参加したり、サンタクコースの衣装を着けて小学生のクリスマス会に参加し、子どもたちに歓迎されることもあるそうです。

昨年11月に中里皆瀬地区で開催された「つんのーで歩行ラリー」には約二百五十人の生徒が参加し、歩くだけではなく、参加者に配られるおにぎりや豚汁作りを手伝いました。今後も生徒たちの意識を高めていき、全校生徒が意欲的に活動できるようになることを目指しています。



「中里まつり」のゲームで、声援を送る中学生



1月に中里小学校で開催された「校子連ロードレース大会」で伴走した喜々津祥之さん、大谷一馬さん、山中淳生さん（写真左から）



4年生女子と5年生男子の伴走を担当した大谷さんは「陸上部で日ごろから鍛えているので、案内役としての伴走を引き受けましたが、小学生の足が意外と速くて驚きました」と小学生の脚力に感心していました。「小学生に負けたくないくらい練習を積んで、来年もぜひ参加してほしい」と後輩たちの今後の活動に期待しているそうです。

山中さんと喜々津さんは、地域で開催された夏祭りの出店を、大人たちに混じって手伝ったことも印象深いそうです。花火や菓子が当たる「千本釣り」や「ヨーヨー釣り」の出店では、遊びに来た子どもたちにゲームを楽しんでもらうことができたので満足しているとのこと。

中里中学校の地区生徒会として活動を終えた3人は、この春高校生になります。



余裕ある笑顔を見せながら小学生の伴走を務める中学生

佐世保市の小・中学校の歩み

佐世保市は明治35年4月に誕生しましたが、小学校の歴史は、明治7年、現在の谷郷町に「佐世保小学校」が創立されたころから始まります。同校の開校当時は、6、7歳から25、26歳までのさまざまな年齢の生徒が約90人ほど通っていたそうです。その後、本市と周辺町村の合併、小・中学校の編入や統合などの歴史を経て、ことしは旧吉井町と旧世知原町の小・中学校が加わります。



小・中学校数と児童生徒数

本年度は旧吉井町の南小学校、北小学校、吉井中学校、旧世知原町の世知原小学校、世知原中学校が佐世保市に編入されます。佐世保市立の小中学校数は42校（うち分校3校）、児童数は約一万四千八百人、中学校数は24校、生徒数は約七千四百人となります。

佐世保の小・中学校の主な歴史

- 明治 7 (1874) 年 現在の谷郷町に佐世保小学校を創立
現在の早岐、日宇、中里、皆瀬、柚木、江上、宮、三川内地区に小学校を創立
- 8年 現在の大野、広田、針尾、相浦、黒島地区に小学校を創立
- 35年 佐世保市市制施行
- 昭和 2 (1927) 年 佐世村、日宇村を編入
- 13年 相浦町を編入
- 16年 国民学校令公布
- 17年 早岐町、大野町、中里村、皆瀬村を編入
- 22年 6・3制実施 新制中学校発足
- 29年 柚木村、黒島村を編入
- 30年 折尾瀬村（現三川内地区）、江上村、崎針尾村（現針尾地区）を編入
- 33年 宮村を編入
- 43年 針尾・江上中学校を統合して東明中学校を創立
- 49年 港小学校を創立
- 51年 花高小学校を創立
- 59年 相浦西小学校、崎辺中学校を創立
- 平成 3 (1991) 年 早岐中学校を分離して広田中学校を創立
- 6年 黒髪小学校を分離して大塔小学校を創立
御船小学校と琴平小学校を統合して金比良小学校を創立
- 13年 戸尾小学校と光園小学校を統合して祇園小学校を創立
相浦中学校を分離して日野中学校を創立
- 14年 学校完全週5日制を実施
- 15年 里美分校を柚木小学校に統合
- 16年 モデル校で2学期制の試行開始
八幡小学校と保立小学校を統合して清水小学校を創立
- 17年 吉井町、世知原町を編入